

# 第一次中期経営計画

2018>>>2022年度

**C**hance –チャンスをつかむため–

**C**hange –意識を変え–

**C**hallenge –積極的に挑戦する–

～創造力・実行力・技術力ナンバーワンのチームへ～

1. 計画策定の目的	1
2. 計画期間	2
3. 経営理念	2
4. 私たちのビジョン	2
5. 基本方針	3
6. 取組みの視点と行動計画	4
7. 重点的な取組事項と目標設定	5
「信頼と期待に応える事業運営を目指します」	6
花と緑あふれる魅力的なまちづくり	6
豊かな地域づくり・地域の活性化に向けた魅力的なまちづくり	8
「自律性のある財政基盤の確立を目指します」	9
指定管理事業の確実な獲得へ	9
安全・安心なサービス提供へ	9
社会に還元する公益活動の充実へ	10
「職員の満足度を高める財団運営を目指します」	11
仕事を楽しめる職場づくりへ	11
成長し続ける組織運営へ	11
8. 取組事項の進捗管理	12
9. 事業収支計画	12

# 1. 計画策定の目的

当センターは、新潟県内の緑豊かで潤いのあるまちづくりに寄与するため、平成2年に設立され、積極的に花と緑の普及・啓発や緑の空間を増やす活動に取り組んでいます。

平成25年4月に公益目的事業を行う不特定かつ多数の方の利益の増進に寄与する法人である、公益財団法人として新潟県知事の認定を受け、新たなスタートをきりました。

生まれ変わって気持ちも新たに、花と緑のチカラをより多くの皆さまのもとへお届けし、まちが花と緑、そして笑顔とやすらぎであふれることを目指して各種事業を実施しています。

また、指定管理事業では、「スポーツ」「健康づくり」「自然学習」をテーマとした新潟県スポーツ公園、「四季を通じた観賞」「教育・普及」「貴重な植物の保全」「調査・研究」をテーマとした県立植物園、「自然」「歴史」「文化」をテーマとした県立大潟水と森公園の管理運営を行っています。

この計画は、公益財団法人としての使命を積極的に果たし、人材、財務及び組織の面において自主的かつ自律的な経営基盤を確立するため、中期的な経営の方針と視点を明示するとともに、その具現化のための行動計画を定めたものです。

花と緑の教室



新潟県スポーツ公園



県立植物園



県立大潟水と森公園





## 2. 計画期間

2018年度から2022年度までの5カ年計画とします。

※社会情勢等を考慮し、3カ年終了時点で見直しを行う場合があります。

## 3. 経営理念

「県民に愛される財団」を目指して、都市緑化に関する情報発信力の強化とニーズをとらえた緑化技術・緑化事業の持続的な発展を実現し、みどり豊かなまちづくりに貢献します。

## 4. 私たちのビジョン

私たちは、県民が望む「花と緑あふれるまちづくり」に向け、創造力・実行力・技術力ナンバーワンのチームを目指します。



## 5. 基本方針

本計画期間内における財団経営の基本方針を以下のとおり定めます。

この基本方針は、計画実行時の取組事項を先導する指針であり、経営理念の実現に向けて具体的な方向性を示すものです。

### 1. 専門性を活かした都市の緑に関する普及啓発活動の推進

都市緑化に関する調査研究活動等で培ってきた専門的な知見を生かしながら、植物に関する知識の普及や都市の緑化の増進のための普及啓発活動を推進します。

### 2. 住民との連携による多様な機能を活かした事業の推進

地域住民や民間団体等と連携しながら、都市緑化の効果的かつ効率的な推進、公園の多面的な機能を一層発揮するよう努めます。

### 3. 都市公園の新たな魅力の創出による地域の活性化

都市公園がにぎわう新たな魅力を創出して情報発信力を高めるとともに、公園を含むまちづくりによる地域の魅力向上と活性化に貢献します。

### 4. 指定管理業務の着実な実施と健全な財政の維持

経営の基盤となる指定管理業務を着実に実施し、必要な指定管理の獲得を目指すとともに、収入および支出の不断の見直しにより健全な財政の維持に努めます。

### 5. 将来にわたり継続的に業務を行うための体制の確立

適時・適切な人材の確保等により、今後とも継続して安定的に業務を行い、知識・経験等が円滑に継承できるような職員体制を確立します。



## 6. 取組みの視点と行動計画

事業展開にあたり、基本方針や取組みの視点を意識し、具体的な行動計画を明示します。

基本方針	取組みの視点	行動計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>●● 専門性を活かした都市の緑に関する普及啓発活動の推進</li> <li>●● 住民との連携による多様な機能を活かした事業の推進</li> <li>●● 都市公園の新たな魅力の創出による地域の活性化</li> </ul>	<p><b>信頼と期待に応える事業運営を目指します</b></p> <p>「都市緑化の普及啓発・推進」「公園管理運営」を進めるうえで、当財団の存在意義が広く周知され、県民や行政からの期待に応え、信頼される事業運営を目指します。</p>	<p><b>花と緑あふれる魅力的なまちづくりへ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 都市の緑に関する意識啓発・広報活動の充実</li> <li>➢ 技術指導や活動費助成等による緑化支援活動</li> <li>➢ 都市緑化技術の研究・普及・啓発</li> </ul> <p><b>豊かな地域づくり・地域の活性化に向けた魅力的な公園づくりへ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 都市公園の管理を通じた良好な緑と憩いの場の提供</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●● 指定管理業務の着実な実施と健全な財政の維持</li> </ul>	<p><b>自律性のある財政基盤の確立を目指します</b></p> <p>効率的な資産運用、収益性の向上により公益目的事業を安定的に継続できる自律性のある財政基盤を目指します。</p>	<p><b>指定管理事業の確実な獲得へ</b></p> <p><b>安全・安心なサービス提供へ</b></p> <p><b>社会に還元する公益活動の充実へ</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●● 将来にわたり継続的に業務を行うための体制の強化</li> </ul>	<p><b>職員の満足度を高める財団運営を目指します</b></p> <p>計画的な人材育成を通し、職員の満足度向上による職場の活性化を図りながら、成長し続ける財団運営を目指します。</p>	<p><b>仕事を楽しめる職場づくりへ</b></p> <p><b>成長し続ける組織運営へ</b></p>

2018年度以降の調整事項として、2020年東京オリンピック競技の会場使用により開催することができないプロ野球などの大規模・中規模大会の地方開催に協力し、経済活性化効果を最大限発揮できるよう取り組みます。

## 7. 重点的な取組事項と目標設定





## 花と緑あふれる魅力的なまちづくりへ

当センターの持つ、“はな”と“みどり”に関する高い総合力《技術・知識・情報収集力・ネットワークなど》を県民に提供することにより、まちに花や緑があふれ、やすらぎとうるおいに満ちた魅力的なまちづくりを実現し、にいがたの都市ブランド力を高めるための一翼を担います。

## 都市の緑に関する意識啓発と広報活動の充実を目指します

- 業務成果の継続的な蓄積と成果を活かした、より積極的な事業効果のPRを行います。
- ニーズを的確に捉えた“花”と“緑”に関する情報を収集し、ホームページや情報誌などで分かりやすく伝えます。



財団公式ホームページ



情報誌



植物園だより



## 技術指導や活動費助成等による緑化支援活動を充実します

- 花と緑あふれるまちづくりの実現に向け、まちなかの緑化を積極的に推進するための取り組みを行います。
- 県内各地で花と緑の教室事業を展開するため、当センターの「花と緑のアドバイザー」など、豊富な人材ネットワークを拡充します。



## 都市緑化技術の研究・普及・啓発

- 調査研究成果を活用し、新潟県や県内の市町村・大学校などとの連携を強化します。
- 当センター主催及び共催の講演会・勉強会などを開催し、植物の大切さを伝えます。



## 豊かな地域づくり・地域の活性化に向けた魅力的な公園づくりへ

公園に求められる多種・多様化するニーズの変化を捉えるため、地域住民や企業・団体、公園利用者の“生の声”を聴き、新たな公園の魅力づくりを進めます。  
総合的かつ戦略的なパークマネジメントにより、日本を代表するモデル公園へと育て、まち全体の魅力向上につなげます。

## 都市公園の管理を通じた良質な緑と憩いの場を提供します

- 都市公園のストック効果の発揮に向け、より一層柔軟な活用を目指し、地域住民、企業・団体との連携を加速します。
- 新潟県との連携により、各公園のエリア毎の特徴を活かし、ハード面・ソフト面ともにトレンドに合った公園へのリニューアルに取り組みます。



新潟県スポーツ公園／遊具広場リニューアル

- 幼稚園・保育園、小学校、中学校などを対象に、年齢に応じ、自然と親しみながら「感じるチカラ」を育むための団体向けプログラムを用意し、教育目的の利用を促進します。



## 視点2

# 自律性のある財政基盤の確立を目指します

### 指定管理事業の確実な獲得へ

「新潟県スポーツ公園」「県立植物園」「大潟水と森公園」を活動のフィールドとして『地域の活性化』『公園リニューアル』『防災』『イベントなどの運営』『施設の維持管理』といった視点で公園管理のあり方を検討するとともに、地域住民や企業・団体などと協働し、にぎわいのあるまちづくりへ向け、日本一活気あふれるステージを創ります。

- 新潟県立都市公園指定管理者評価・審査委員会からの評価において、施設の効用を最大限に発揮できる提案と経費の効率的な執行を常に行い、県内ナンバー1の評価を目指します。
- 本計画期間内においては、現行指定管理施設3施設の提案内容を着実に実施するとともに、常に進化し続ける管理運営を行います。

### 安全・安心なサービス提供へ

当センターが管理運営を行う指定管理施設などにおいて最も大切なことは、公園を利用される方や施設内で働くスタッフに「安全」と「安心」という目に見えない最大のサービスを提供することです。事故やケガを未然に防止し、あらゆる危機に対し適確かつ迅速に対応するために必要なマニュアルなどを定め、安全管理・危機管理を徹底します。

- 安全管理体制や危機管理体制の整備を行い、職員間における情報の共有を徹底し、確実な実行を促すことで、全ての公園利用者などに「安全」と「安心」を提供します。



## 社会に貢献する公益活動の充実へ

公益法人の認定要件でもある「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」を確実に実行し、より多くの利益を還元するため、収益率の向上、支出経費の縮減、働き方改革の導入等による支出経費の削減などを図り、営業利益の向上対策を積極的に進めます。

- 有料公園施設毎の目標を定めた上で、積極的かつ効果的なPRを行い、利用促進を図ることで有料公園施設使用料〔共用利用〕の収入増加を図ります。
- 自主事業の拡充や新規展開を行うことで、新たな利用者層を発掘し、さらなる賑わいの空間を創出します。
- 働き方改革や開かれた職場風土づくりを行うことで、業務の効率化を進め、支出経費の削減を図ります。
- 財産の管理運用方法〔格付け〕を見直し、運用益の増収を図ります。



## 視点3 職員の満足度を高める財団運営を目指します

### 仕事を楽しめる職場づくりへ

職員一人ひとりが、プライベートを充実させることによって、仕事の効率やパフォーマンスを向上させ、更にスキルアップを図れるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組みを行います。

- 職員が安心して、やりがいを感じながら働けるよう、福利厚生の実施を図ります。
- 現行の職員表彰制度を見直し、職員の意欲を引き出すことで職場の活性化を図ります。
- 中長期的な経営強化に向けた効率的かつ効果的な人員配置を行います。
- 業務効率化に向け、場所・時間にとらわれない働き方などの導入を検討します。

### 成長し続ける組織運営へ

中長期的な視野で、成長し続ける組織であるためには、社会のニーズを的確に捉えるため、常に「今」を見つめることが必要であり、その「今」を見極められるのはヒト以外には存在しません。ヒトは、大きな付加価値を生み出すことのできる、最も重要な組織の財産であることを意識し、人材育成と満足度向上により、組織を活性化し、成長し続ける組織運営を行います。

- 「求められる職員像」「充実した職員配置計画」「快適な職場環境づくり」の見える化を行います。
- スキルアップに向け、人材育成計画に基づいたセンター内部の職員研修会を実施します。
- 業務に対する職員満足度調査を行い、より良い職場環境づくりを行います。



## 9. 取組事項の進捗管理

進捗管理を継続的に実施するため、セルフモニタリングチームを設立します。

本計画期間を通し、事業評価の結果を改善につなげ、計画や実施にフィードバックさせることにより、確実に成果を挙げるための仕組みづくりを行います。

モニタリング経過や結果は、各年度ごとに幹部職員で組織する「センター運営委員会」で報告し、その成果を検証するとともに、その成果目標が達成されていない場合には、その原因分析、対処方策について検討を行い、着実な計画の実施と効果的な人材育成を図ります。

## 10. 事業収支計画《2018年度→2022年度》



【単位：百万円】

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
経常収益	1,042	1,035	1,026	1,028	1,028	1,030
経常費用	1,034	1,049	1,030	1,032	1,031	1,023
税引前正味一般財産増減額	8	-14	-4	-4	-3	7
法人税等	2	1	1	1	1	1
税引後正味一般財産増減額	6	-15	-5	-5	-4	6